

[sankei.com](https://www.sankei.com)

正門にかかる2つの大学名 キャンパス「同居」で生き残り 高野山大と大阪千代田短大

SANKEI DIGITAL INC.

[大阪千代田短大と高野山大の河内長野キャンパス。門柱には両校の校名がかかる＝大阪府河内長野市](#)

大阪千代田短大と高野山大の河内長野キャンパス。門柱には両校の校名がかかる＝大阪府河内長野市

少子化で大学の経営環境が激変しているなか、異なる大学が同一キャンパスに“同居”する取り組みが始まっている。高野山大学（和歌山県高野町）が今年4月、文学部に教育学科を新設。開設先は大阪千代田短期大学（大阪府河内長野市）内だ。異なる学校法人の運営する大学が同じキャンパスを利用するのは珍しい。コスト削減や効率的な設備利用などメリットは大きいといい、新たなモデルとなる可能性もある。

体験重視

緑豊かな自然に囲まれた河内長野市小山田地区。小高い山の上にある大阪千代田短大裏の山林で今春から、生い茂る木を切り倒し、遊歩道の整備に取り組む若者たちの姿がみられるようになった。高野山大文学部教育学科の学生たちだ。

地元のNPOの指導を受けながら、慣れない手つきでノコギリを使う。1年の村上遼さんは「初めての経験で戸惑うこともあるが、将来役立つと感じている」と話す。同学科の目玉となるカリキュラム、地域体験学習だ。

学習では、教員が間伐がもたらす恵みなどを説明。柳原高文特任准教授は「実際に経験していれば、理科の授業でも説得力ある教え方ができる」と話す。





地域体験学習で森林整備をする高野山大の学生ら＝6月、大阪府河内長野市

その他にも農作業など4つの体験学習コースがある。同大は「近くに里山があり、地域で活動するNPOもいた。特色を打ち出せている」と新キャンパスの手応えを話す。

コスト削減効果

高野山大にとって、教育学科の創設は7年越しの悲願だった。平成26年に教育学部の新設計画を発表。河内長野市内の小学校跡地での開校を目指したが、当初見込みより校舎改修などキャンパス整備に多額の費用がかかることが判明。また、本部のある和歌山県が県外設置に反対したこともあり計画は白紙になった。

その後生まれたアイデアが大阪千代田短大との共有化。いずれも弘法大師空海の思想を教育理念としていることや、同短大は幼稚園教諭免許の取得もできるなど教育分野での親和性もあった。





高野山に本部を置き、130年の歴史をもつ高野山大。ピークの平成6年度には約1300人の学生がいたが、現在は約130人。高野山のキャンパスで仏教などを学ぶ文学部密教学科が柱だが、新学科は比較的交通の便がいい地で学生を集める狙いがあった。

キャンパス共有で一番大きいのはコスト面のメリットだ。当初の小学校跡地での開設は、校舎改修などで総額7億円のほか、設備・機材の整備などさらに費用がかかる。同居なら校舎の新設などは不要で、当初想定の半分以下で済んだという。

同短大にとっても恩恵は大きい。短大離れなどの逆風を受け、現在の学生数は約200人。ピーク（平成20年ごろ）の4割程度だ。500人の受け入れ規模があるキャンパスは、もてあましていたのが実情だ。

高野山大と大阪千代田短大の概要

高野山大		大阪千代田短大
明治19年	開	学
和歌山県高野町	本部所在地	昭和40年 大阪府河内長野市
<ul style="list-style-type: none"> 文学部密教学科 同教育学科 	主な学部・学科	幼児教育科
約130人	学 生 数	約200人
<ul style="list-style-type: none"> 高野町 (密教学科) 河内長野市 (教育学科) 	キャンパス	河内長野市 (幼児教育科)
<ul style="list-style-type: none"> 小学教諭1種 幼稚園教諭1種 保育士資格 など (河内長野キャンパス)	取得できる資格	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教諭2種 保育士資格 など

設備面でも効率的に利用が期待できる。同短大は幼児教育学科を柱としてきたため、幼稚園教諭免許、保育士資格取得に向けた実習に使う乳幼児保育実習室、音楽室などを備える。一方、小学校教諭免許取得のための実習に必要な理科室は、同短大と同じ学校法人が運営する近隣

の大阪暁光高校の理科室を活用できる。

現在、両校の学生がともに受ける講義はないが、来年度からは、一般教養科目での共通カリキュラムを目指している。同短大から同大への編入も可能だ。

同短大の松浦善満学長は「短大を取り巻く環境は厳しい。高野山大との連携でカリキュラム、大学編入など学生に選択肢を増やせる」と期待する。

認知度課題

18歳人口は減少が続き、大学経営は厳しさを増す。リクルート進学総研によると、18歳人口は令和2年の116・7万人から12年間で約12%減少する見込み。近畿は約2万9千人減と全国で最も減少数が大きくなるとみられている。

文部科学省によると、大学・短大などでは令和2年度までの5年間に46校が廃止。うち31校は短大で、近年短大の厳しさも目立つ。

同居で新たなスタートを切った両校だが、滑り出しはやや厳しい。高野山大の教育学科の入学者は11人。定員(50人)に届かなかった。同大は「コロナ下で十分なPR活動ができず、新学科の存在が浸透しきれなかった」とする。両校の施設やカリキュラムを活用できるなど、メリットと打ち出している点の認知度向上も課題だ。

また、今後、仮に学生数が大幅に増えた場合は、施設の収容能力の改善も含めた対応が迫られる。

同居による相乗効果を狙う両校。高野山大の岡本正志副学長は「新しい試みだからこそできる相乗効果がある。来年度以降、学生を増やしてキャンパスを活気づけたい」と話している。(大島直之)